

# EUの言語政策 ～多様性の中の統合～

Languages of the EU ~United in diversity~



2016年5月18日(水)～6月3日(金)  
三田メディアセンター2階・3階  
企画:慶應義塾大学EU情報センター

# 「EUの言語政策～多様性の中の統合～」

今年の展示のテーマは、「EUの言語政策～多様性の中の統合～」です。欧州連合(EU)には現在、28カ国が加盟しており、約5億人もの人々が暮らしています。そうした多様な人々で構成されているEUでは、言語も様々なものが話されています。では、EUは多様な言語とどのように向き合っているのでしょうか。今回の展示では、言語政策を通じてEUの文化的・教育的側面に着目し、多様な人々が生きるEUの姿とその取り組みを紹介しています。ぜひ展示スペースに足をお運びください。

## ➤ EUの公用語と多言語主義

現在、EUには以下の24の公用語(official language)が存在しています。

ブルガリア語	フランス語	マルタ語
クロアチア語	ドイツ語	ポーランド語
チェコ語	ギリシャ語	ポルトガル語
デンマーク語	ハンガリー語	ルーマニア語
オランダ語	アイルランド語	スロヴァキア語
英語	イタリア語	スロヴェニア語
エストニア語	ラトビア語	スペイン語
フィンランド語	リトアニア語	スウェーデン語
		(アルファベット順)

そして、それに加えて、公用語以外の言語も60以上存在すると言われています。

多様な人々を抱えるEUは、“United in Diversity(多様性の中の統合)”というモットーを掲げています。さらに、EUでは言語的な多様性は文化的な豊かさであると考えられており、すべての言語に対して等しく価値を認める、多言語主義の立場をとっています。そして、多言語主義に基づき、多様な人々を抱えたEUならではの言語政策を行ってきました。

## ➤ 日・EUフレンドシップウィーク

日本とEUは国際政治経済の舞台において共に大きな影響力を持ち、両者の間では、国家首脳レベルの外交や経済界の交流などが盛んに取り交わされています。ただし通常の単一国家とは異なり、EUは複数の加盟国をまたにかけた堅固で複雑な組織の上に成り立っています。さらには輪番制で議長国を受け持つ制度や、多岐にわたる条約や法律の数々、また各加盟国の立場や地域委員会の存在など、EU以外の国にとってはイメージを描きづらいことも少なくはないでしょう。

駐日欧州委員会代表部(在東京)はそんなEUとの橋渡しをめざし「日・EUフレンドシップウィーク」という企画を2001年から開催しています。5月9日のヨーロッパ・デー(欧州連合の誕生日)を中心に全国の様々な機関で開催されるイベントは、文化・スポーツ等の親しみやすいものが中心で、EUや欧州に対して新しい側面を発見することができるかもしれません。

## ➤ EU情報センター

EU情報センターとは、英語名ではEuropean Info(略称:EUi)といい、欧州委員会がEUに関する情報を提供するために設置されているセンターです。世界各国の大学(主にEU諸国)に約500、日本には寄託図書館である国立国会図書館のほか、19のEU情報センターが各地の大学に設置されています。慶應義塾大学は、1982年に日本で7番目のセンターとして設置されました。

三田メディアセンター2階の一角にEU資料をまとめたコーナーを設け、欧州委員会出版局から寄贈を受けた、経済・産業・農業党の選択された分野における英語のEU公式資料(官報・雑誌・統計・図書等)や、駐日欧州委員会代表部より刊行されている『europe: 月刊ヨーロッパ』をはじめとする日本語の公式資料を収集しています。利用は主に研究者や学生を対象としていますが、一般にも広く公開しています。これは、EU情報センターが、単に大学におけるEU研究の手助けをするだけでなく、コミュニティ全体にEUへの理解を浸透させるという役割を担っているからです。資料を自由に手に取って閲覧できますので、どうぞご利用ください。